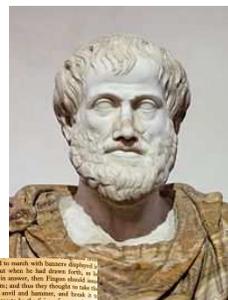




No. 604 (1)

2018.1.18

京大職組  
文学部支部



## 新年のご挨拶

(哲学者ふうじ)

中畑正志

今年度の文学部支部長は、前期を小山さん、後期を私が務めることにしたので、「年頭挨拶」は私にお鉢が回ってきた。有期雇用教職員の無期転換の問題をはじめとして課題山積のなかではあるが、年のはじめでもあり、ここはひとつ、組合として労働者の権利を守り労働環境を改善するために闘争することを、高らかに宣言するとしよう。京大の労働者諸君、団結せよ！だ。そのためには、まず、お屠蘇を飲みながらマルクスの「共産党宣言」でも久しぶりに紐といて・・・と、思っていた。

しかし予定していなかった仕事が続いてきて、年末年始の休みが吹っ飛んでしまった。これは私が編集にかかわっているある全集に関係することなので、誰にも文句は言えない。でも、「新年の挨拶」の締め切りは、とうに過ぎていく。――だが、だれでも窮地に追い込まれると、無い知恵を絞り出すものである。私が考えたのは、目の前の仕事をこの「挨拶」に混ぜ込んで利用することだ。

いま、アリストテレスという哲学者の『政治学』という書物の「解説」を書いている。古代ギリシアのことでもあり、女性や奴隷は支配されても当然のような議論が含まれていて、必ずしも評判がいいとは言えない本だ。それでも、次のような議論もある（大学という組織の話に寄せて書く。）

組織や共同体は、その構成員がみな幸福であるような「最善の制度」を実現することを目指すべきである。ただし「最善の制度」にもいくつかのレベルがある。第一に、すべての条件が理想的に揃った希望どおりの「最善の制度」、第二に過去や現在の制度の種類のなかで最も優れた「最善の制度」、第三にいま現実にある組織のあり方を前提にして考えられる「最善の制度」。このなかで最も重要なのは第三のものである。その実現のために実際に行動できるからである。

しかし現実には、それさえ実現は容易ではない。そこでこの哲学者は、現に存在する不正な制度や組織でもどこをどう修正すべきか、いやむしろどうすれば組織の崩壊を防ぐことができるかをあれこれと考えている。

たぶん組合としていま取り組めるのも、この最後のたぐいのことだろう。予算の上でも教職員の労働環境の上でも、このままだと大学という組織そのものが維持できなくなるかもしれないからだ。大袈裟かもしれないが、あちこちで綻びが現われているように見える。予算獲得のための研究不正やさまざまな業務上の過誤はその予兆にも見える。もともと、そのまゝに組合という組織を維持するために知恵と行動も必要ではあるが。

課題山積・

でも、悲観的な

気分でもない。

状況を粘り強く

改善しよう



## アンケートにご協力ありがとうございました

暮れのお忙しい時期であったにも関わらず、多数の貴重なご意見をお寄せいただき本当にありがとうございました。研究科長交渉をはじめとして、さまざまな部署への働きかけの資料といたしたいと思います。



# 新春文学部支部文化企画



## 新年会のご案内



あけましておめでとうございます。皆様には年明け早々お忙しくお過ごしのことと存じます。いつも組合の行事ならびに各活動にご協力を賜り、心より御礼申し上げます。今年もよろしくお願い致します。

さて、文学部支部主催の新年会を1月25日(木)18:00から百万遍交差点を北に行くところとすぐにあるビストロ・西洋各国料理の「Ma Cantine/マ・カンティヌ」で開催いたします。ご多忙かと思いますが、どうかご参加ください。また、未組合員の方も歓迎いたしますので、ぜひお誘いください。お待ちしております。

日時:2018年1月25日(木)18時～

会費:2,500円

場所:「Ma Cantine/マ・カンティヌ」

〒606-8225 京都府京都市左京区田中門前町103-3

TEL/075-200-9628 (百万遍交差点を北へすぐ)



### 今年はフレンチベースの欧風食堂

参加の連絡は1月19日(金)までにお近くの支部委員にお声をかけてください。

(中畑先生、小山先生、杉山先生、藤山、坂田、福村、今野、似内、内山、岡本) よろしくお願ひします。

## 情報検索ごぼれ話

④

今野創祐

### ◆◆複本問題◆◆

公共図書館がベストセラーやエンターテインメント小説等の複本を多く持つことに対して、出版関係者(作家・出版社)と公共図書館の間でたびたび議論が起きてきた。葉袋秀樹(筑波大学名誉教授)の研究によると、1997年に初めて出版関係者からベストセラーの複本購入に関する問題提起があり、2001年以降、エンターテインメント小説の複本購入についても問題提起が始まったという。

一方で京都大学においても「複本問題」は存在する。現在、京都大学の多くの図書館・室では書庫の狭隘化が大きな問題となっているため、学内に複数冊所蔵されている図書については、複本を処分してしまえば良いのではないかと、という考え方もあるようである。しかし一方で利用者の声を聞くと「利用したい本が借りられてしまったが、複本があるおかげで助かった」という話もあり、なかなかこちらも難しい問題である。

